



上野城跡

市河芸庁舎の北東、国道23号の西側の標高約30メートルの高台に上野城跡はある。



城跡は、東西約250メートル、南北約550メートルの規模で、現在その中心部は「本城山青少年公園」として整備されている。

城の主郭の周囲には、かつて土塁や堀切りで区画された郭が取り巻き、特に主郭の東側には幅が20メートル近い空堀があったという。

主郭の広さは約30×45メートル、その四周には今もところどころに土塁が残り、城らしさをとどめている。また、主郭の北西隅の天守台とされる高まりには、現在は展望台が建っており、そこからは伊勢湾が一望できる。

さて、上野城の築城時期は明らかではないが、天文17(1548)年に分部氏から三間氏にこの城が預けられたことが記されている。その後、永禄11(1568)年に織田信長による伊勢侵攻があり、織田信長の弟信包が一時この城に入り、分部氏は信包に仕えた。信包が天正8年(1580)に

安濃津城(津城の前身)に移ると、分部氏が城代として上野城に入っている。

文禄3(1594)年に信包が近江に移った後は、分部氏は豊臣秀吉、徳川家康に仕えて加増を重ね大名となり上野城主となったが、元和5(1619)年に近江国大溝おおみぞ(現在の滋賀県高島市)へ転封となり、それとともに上野城は廃城となった。

(「広報津」平成19年9月1日号)



主郭に残る天守台とされる高まり